



村田 享子 参議院議員

マンスリーレポート 3月号



衆院選で私たちの声がさらに国へ届く 与党過半数割れの衆議院で、野党の声が政治に反映

皆さま、ご安全に！村田きょうこです。

1月24日(金)から通常国会が開会し、31日から衆議院で予算審議が始まりました。衆議院の与党の議席数が過半数割れとなった昨年の臨時国会では、政府が提出した補正予算案が野党の求めに応じて修正されましたが、通常国会で審議される令和7年度当初予算は補正予算の10倍、約115兆円です。物価高で苦しい家計を支える予算になっているのか？予算の中身と金額をしっかりと議論してまいります。

● 先の臨時国会の取り組み



1. 補正予算が修正の上で成立

2024年度の補正予算案が国会審議での修正を経て成立しました。これは、当初予算の予備費に計上されていたうちの1,000億円を能登半島の支援に充てるよう、立憲民主党の求めに応じたためです。政府予算案が国会審議を経て修正されたのは、予算案としては第一次橋本内閣の1996年度本予算以来28年ぶり、補正予算では初めてのことです。

2. 政治改革関連法など16本の法案が成立

内閣提出では、国家公務員の給与引き上げや仕事と育児を両立しやすくする法案など9本が、また、議員提出では、政策活動費の廃止や、調査研究広報滞在費(旧文通費)の使いみちの公開や残額の返還義務付けなどの7つの法案が成立しています。

● 第217通常国会がはじまりました

6月22日(日)までの150日間の会期となる、今国会の特徴を取り上げてみました。

(1) 提出予定法案数は閣法59本、条約13本

	主な法案
令和7年度予算案	一般会計115.5兆円
税制関連法案	所得税の基礎控除引き上げ(48万円→58万円)
	大学生年代の子の親への特別控除の創設 (子の給与収入150万円→63万円、150万円超→段階的に引き下げ)
	子育て支援の拡充延長(子育て世帯に対する住宅ローン控除の拡充、生命保険料控除の拡充など)
年金制度改革法案	①被用者保険の適用拡大 ②在職高齢年金制度の見直し ③遺族年金制度の見直し ④私的個人年金(iDeCo)制度の見直し など
GX推進法改正法案*	①排出量取引制度、化石燃料賦課金の整備 ②再生資源利用の義務化や環境配慮製品設計支援
下請代金法・下請振興法改正案*	①価格転嫁の強化 ②物流取引への規制拡大 ③下請事業者の名称変更 など
労働施策総合推進法改正案	①男女間賃金差異、女性管理職比率の情報公表義務の拡大 ②ハラスメント対策の強化

*印は経済産業、**印は消費者庁所管の法案

(2)衆議院の予算委員会での新たな方式を設置

衆議院では、今回から予算委員会での審議のあり方を見直し、「省庁別審査会」という方式が新設されます。野党側の提案で設置されたこの「省庁別審査会」は、これまで審議の終盤に行われていた「分科会」の日程を一部削ったうえで、予算委員会の序盤に1日7時間、3日をかけてしっかりと議論するものです。各省の予算案を審議するという行為自体は一緒ですが、分科会では出身の選挙区や支援者への予算増額のために質疑時間が多く割かれがちという課題がありました。また、早い時期に個別の事業ごとの議論を重ねることで、仮に予算案の修正が必要になった場合でも作業日程を確保できるという利点もあります。

立憲民主党は、この方式の新設を踏まえて党内に「本気の歳出改革」という作業チームを立ち上げました。私も、経済産業委員会と消費者委員会のチームに入り、衆議院の議員の皆さんと一緒に予算案のチェックを行うことにしています。

今回の衆院予算委員会の流れ



出典：2月5日朝日新聞

● 組合の旗開きや労使懇談会などでご挨拶



JAM 中央委員会で安河内会長と

1月は、労働組合が主催する行事が多くありました。初旬から中旬は労働組合の新年の会合(旗開き)、中旬以降は2月から始まる「春闘」交渉の前に組合の方針を会社側に説明する「労使懇談会」が開催されます。今年も、組合が催す「旗開き」や、JAM が主催するいろいろな「労使懇談会」、さらには JAM の中央委員会にも出席し、ご挨拶をさせていただきました。

● 村田事務所新体制へ

昨年12月末をもって、基幹労連より出向していた田中美佐江秘書が基幹労連に戻ることになりました。私の初当選以来、事務所の立ち上げをはじめ、日々の日程管理、国会見学対応など、大変お世話になりました。ありがとうございました。

そして、今年1月から新しい秘書が村田きょうこ事務所で勤務しています。「平野 干城(たてき)」(45歳)さんです。私が柳田稔事務所の秘書をしていた頃からお世話になっていた、この道のプロフェッショナルです！

村田きょうこ事務所は、井出・平野・田代の三人体制となります。引き続き、お電話やお問合せ等、お気軽にお寄せください。お待ちしております!!

本年1月より村田事務所に入所いたしました平野 干城(ひらのたてき)です。これまで、党本部職員、議員秘書などを勤めてまいりました。今後は、主にSNSを担当させていただきます。皆様へ魅力あるコンテンツをお届けできるよう努めて参ります。宜しく願いいたします。



● サプライチェーンを維持しながら、国際標準化に向けた支援を

2025年2月5日、参議院「資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会」で、浮体式洋上風力発電について寺崎正勝参考人に対して質問をしました。

- 浮体式洋上風力発電を推進するのならば、国内サプライチェーンを維持すべき
- 国際標準化に向けて、国は支援をして欲しい

○電力を安価で供給することが、ものづくり産業に極めて重要だと考えている。

○第七次エネルギー基本計画で、浮体式洋上風力発電における、国内調達比率を2040年までに60%としている。

○一方で、海外から安価な部品調達するという記載もあるが、部品メーカーが利益を確保できるようにサプライチェーンを整備していかないといけないのではないかと。



村田享子参議院議員

寺崎正勝
参考人

○電力を安価で供給することは極めて大切である。
○日本の強みがいかにせよ、浮体式洋上風力発電を国際標準化していきたいと考えている。
○アメリカ西海岸地域で浮体式洋上風力発電をする場合は、日本がものづくりの拠点になるのではないかと。

○国際的に、浮上式洋上風力発電において日本のものが展開されることが重要だと思っている。

○国際標準化は、国と一体となって推進しなければならないが、国の取り組みを教えて欲しい。



寺崎正勝
参考人

○国際標準化に向けてどこの国も競争が激化している。
○産学連携して技術開発を進めていきたい。加えて、一つ一つが優れていても、集合体としてシステムが成り立つのかというアプローチが欧米もされていない。日本のシステムエンジニアリングという視点で、欧米と連携することが大切である。



←質問の動画はこちらから見れます

● 最近の国会見学

たくさんの方とお会いできたこと、うれしいです！今年もお待ちしております。



12/6 JAM東京千葉



12/9 カイジヨー労働組合



12/16
全国ピストンリング
共闘連絡会議



12/16 新人研修



12/19
JVC ケンウッド労組



2月7日 井関農機労働組合 若年層セミナー

● 相談はいつでも受け付けています。

地方 JAM、加盟組合、地方議員の皆さんから数多く相談事項が寄せられております。国の補助金、産業活性化に向けた話、生活に関するご相談を受け付けております。

役所とのやり取りを通じて、解決に向けて前進した事例もあります。皆さん、ぜひご相談ください。

詳細は、お近くの地方 JAM まで。

【発行元】 JAM 政治センター
TEL:03-3451-2451

〒100-8962 東京都千代田区永田町 2-1-1
公式サイト⇒<https://murata-kyoko.com/>